



1 専門領域選択と大学校化へ



ITの専門領域について説明する石川先生

9月5日(木)に1年生を対象にしたITの専門領域選択に関する説明と、本校の大学校化に伴う進学等についての説明会が実施されました。後期授業に向けた専門領域(情報システムコース、生産管理コース、情報セキュリティコース)については、石川先生から各コースの特色と詳しい学習内容が説明されました。

令和8年4月からの大学校化と、その応用課程への進学については、落合先生と宮田先生から説明がありました。

説明を聞いた学生からは「後期の専門領域の詳しい説明があったので、じっくり選んでいきたい」、「医療や介護機器のプログラム作成やマネジメント系も学びたいので悩んでいます」、「大学校の説明はありましたが、早く就職して実践力を磨きたい」との声がありました。来週から専門領域や進路に関する個別面談が実施されます。



2 学生の健康チェック!



健康診断の様子

9月4日(水)に、就職・進学に向けた、健康診断が実施されました。担当の落合先生は「全ては身体が資本です。身体の変化をいち早く捉え、早めに対策することが大切です。つまり身体の情報管理も忘れてほしくない」と話されていました。



3 『記事トレ』紹介



本校では、IT専門力に加え社会人基礎力の向上のため『記事トレ』を実施しています。新聞を読み、要約とIT技術者としての感想を書くトレーニングを通して読み解く力を育成します。

＜記事トレ＞日本経済新聞(2024年8月28日)

燃料電池車

世界販売、35年に40万台予想

●平田柚子さん(石岡商高卒)

◇要約: 燃料電池車は電気自動車よりはるかに性能が優れており、普及すれば2035年には世界販売が40万台になると予想されている期待の次世代車だ。現状の課題は、FCシステムの低コスト化の実現で、30年までに7割削減する必要がある。

◇感想: 少し前に教科書で燃料電池車のことを知り、これほどまでに優れた性能があるのになぜ普及していないのだろうと疑問でいた。この記事からコストの問題など詳しく知ることができた。もし、IT技術がこのFCシステムに関わるなら、私も携わってみたいと思う。

●石川侑典さん(水城高卒)

◇感想: 電気自動車以上に航続が可能で、エネルギー充填時間が何倍も短いFCシステムの車両が増加すれば、地球温暖化の進行も抑えられると考えられる。

今の亜熱帯のような日本の気候も、十数年前のような気候に戻って欲しいものだ。

●檜山花蓮さん(水戸桜ノ牧高卒)

◇感想: FCVはEVと違って充填時間もわずか3分で航続距離もEVが567kmのところ820kmも走れるなど強みがあることが記事から分かった。低コスト化を実現させ世界中にFCVをもっと普及させて欲しいと思う。

●坂 卓実さん(つくば工科高卒)

◇感想: 二酸化炭素が排出されない燃料電池車の登場によって自動車による温室効果ガスが少なくなるだろう。しかし、燃料電池車はあまり普及しておらずガソリン車が一般的だ。普及させるためのインフラの整備やシステムの低コスト化が必要だろう。

●大内沙月さん(水戸商高卒)

◇感想: 地球温暖化の影響を少なくする為に、二酸化炭素や有害な排出ガスを出さない工夫は大切だと思った。

しかし、コストが高かったり充電するところが少なかったりとデメリットも多い。

私も大学での学びを活かし地球温暖化に活かせるようにしたい。

